

年間第33主日

貧しい人のための世界祈願日
ミャンマーデー

福音朗読 マルコ 13・24-32

2024.11.17 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の福音では、イエス様が、イエス様に従う者たちが完全な救いに到達するまでに経験しなければならない苦難について旧約聖書以来の伝統的な表現を用いて語っておられる、そういう箇所が朗読されました。

考えてみますと、その信じる者たちが出会わなければならない困難ってというのは、その歴史の中でずっと続いていると言っても良いように思います。歴史の中でキリスト教の信仰を生きるのに何の妨げもない、とっても適した、今適しているっていうふうにそれぞれの時代の人が思うような時代はないのではないかなと思います。

確かに、この現代の日本においては、イエス様の時代や最初の弟子たちの時代、またその^{あと}後の歴史の中でも度々起こるような、信仰をしていることによって命を取られるってというような迫害はないわけですが、一方で、そういう社会の中で平穩に過ごすということを通して、この社会を覆っているそういう雰囲気そのものの誘惑にわたしたちの信仰が晒されるとい、そういう別の意味での危険というのは、あるいは困難ということはあるように思います。

現代の日本においては資本主義っていうか、消費主義ですね。それぞれの人が自分にとって心地良いものを追い求める。そしてそのためにいろんなものを選ぶことができるし、「それはあなたにとって良いものなんです」ってというような宣伝の中にわたしたちは溺れているわけなんです。

同じように、そういう雰囲気が信仰生活にも影響してきて、信仰そのものが「自分が気持ち良くなるために」っていう、あるいは自分のそういう関心の中に留まってしま、そういう危険は絶えずある、晒されているし、それはある意味では迫害よりも非常に注意しなければならない困難、障害なのではないかと言っても良いように思うんです。

自分が心地良くなるために選び取るっていう、消費者としての信仰生活になってしまうならば、決して満足ということはないわけなんです。周りの人に対して不満、教会に対して不満、ひいては神様に対して不満っていう不満地獄の中にずっといるということになるように思います。

ミサのたびごとにわたしたちはイエス様をお迎えするという事は、「自分を満足させてくれ」ということのためにお迎えするのではない。むしろ、そういう不満地獄の中に留まりがちなわたしたちの心を他者に向けることを通して、本当の意味で神様の恵みに出会う、また出会った者でありますように、いつも自分の中に閉じ籠ろうとする強い力に引きずられていくわたしたちの向きを変える、それがミサだし、また特に今日の「貧しい人のための世界祈願日」であると言うことができます。

毎年「[貧しい人のための世界祈願日](#)」のために教皇様はメッセージを出されるわけですが、今年のメッセージの中で、教皇様は「貧しい人々の祈りを自分の祈りとし、彼らと共に祈らなければなりません」というふうに呼びかけておられます。わたしたちが自分の関心のために祈るのではなくて、困難の中にある人々の心を自分の心として祈る、それを呼びかけておられるわけなんです。

今日、冒頭にも申し上げましたけども、全教会としては「貧しい人のための世界祈願日」、そして東京教区としてはもうずっと前から「ミャンマーデー」なんです。お互いアジアの教会として助け合うっていう趣旨で、ミャンマーの神学校の要請のために献金するっていう日だったわけなんですけども、現代はさらに困難な状況の中で教会そのものも迫害に晒されたりして、その避難民の救済をしなければならぬということも視野に入れて、「ミャンマーデー」の献金を東京教区は呼びかけるわけです。

そしてまた、今日わたしたちの教会では福祉施設支援バザーということになっています。色々な福祉施設の方たちがお店を出されるわけですが、同時に自分たちの活動はどういうものなのかっていう紹介もされているはずなんです。ですから、今日のバザーの中では、そこで売られている品物だけに気を取られるのではなくて——もちろん楽しむことがとっても大事ですけども——、それぞれの紹介のところにも目を止めて、そしてそれぞれの団体の背後の今いろんな形で困難の中にある方々の存在を見出すことができますように。またそうして、このバザーを通してわたしたちが、実際には出会うことがないかもしれないけども——でももしかしたら社会の中ですでに出会ってるかもしれないね——困難な人々にこういういろんな困難がある、こういう大変さもある——必ずしも経済的なことばかりではないわけですが——そういう人々のことに思いを致して、そういう人々の心の願いをわたしたちが自分たちの祈りとしてお捧げする、そういう日であつたらいいなと思います。そのことを通して、神様ご自身がわたしたちの心を開き、それが一人ひとりの中に神様の恵みの本当の力を注いでくださる入り口になるのではないかと思います。

今日、「貧しい人のための世界祈願日」、また、「ミャンマーデー」、福祉施設支援バザー、この機会にあたって、一人ひとりが自分の殻から出て、他の人々を思

いや、そのイエス様の心をいただくことができますように、恵みの支えを願い合
いたいと思います。

参照

2024 年第 8 回「貧しい人のための世界祈願日」教皇メッセージ (2024.11.17)

<https://www.cbcj.catholic.jp/2024/10/22/30817/>

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>